

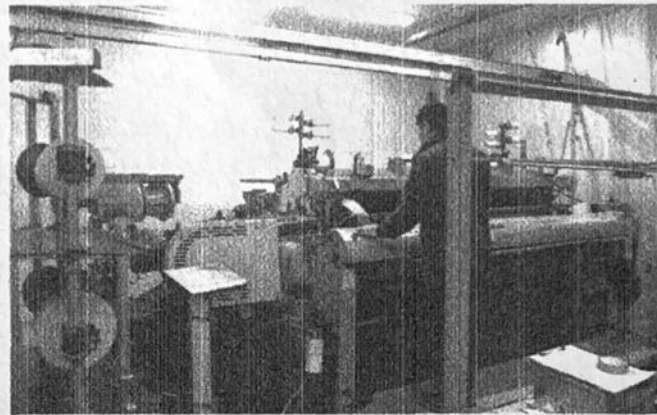
# 福山市などの7社が協力 バラの枝が材料の糸で 「ばらデニム」を製造へ



京が完成させた。同社はサトウキビの搾りかすを使ったジ

福山市内などの七社が進める、バラの枝を材料にした「ばらデニム」の開発に向け、生地を織る糸がこのほど完成した。市が募集した「ばらの枝等利活用提案事業」に応募したコンサルタント業の株 Rinnovation (東

ーンスを製造した実績があり、今回もそのノウハウを活用。廃棄物を生かして新たな製品を作る「アップサイクル」の取



り組みとして、市内でせん定され通常は廃棄されるバラの枝を使用した。

枝を細かく砕いて粉末状にし、紙に加工した後、より合わせて糸に仕上げた。製造には坂本デニム株(同市神辺町)や備後燃糸株(同市芦田町)などが協力。糸は吸水性と速乾性に優れ、綿の糸に比べて重さは半分ほどだという。

リノベーションのコンサルタント・富井岳さん「写真上右」は「肌触りの良い糸で、抗菌・消臭効果も期待できる。本来なら廃棄される物を、市民の皆さんや協力企業と共に再生できた」と喜んだ。

1月25日には、デニム生地を織る工程を担当する篠原テキスタイル株(同市駅家町)で、バラ枝の糸を横糸に使用した生地作りがスタートした。写真下。試作品を手にした同社の篠原由起社長「写真上左」は「紙の糸でもしっかりしていて、張りのある生地に仕上がった。色落ちなど経年劣化が楽しめる物になりそう」と期待を込めた。

3月末までにジーンズの試作品を完成させた上で、商品化を予定している。篠原社長は「ばらデニム」を通して、デニムとバラのまちである福山をPRしたい」と話している。